

交通専門部会 中間報告

1. 交通体系確立の方向

合併に伴い市域が拡大し、各地域の拠点間及び各地域内の交通体系の確立が重要な課題となることから、交通体系の確立は、新市の最重要課題である。

とりわけ新たな交通システムの導入は、新市の一体化を図るうえで重要なリーディングプロジェクトであり、北部、南部、西部、東部方面や環状線など各方面の基幹軸や整備手法を幅広く探るとともに専門家による研究の場を設けるなど鋭意調査検討していく必要がある。

効率的かつ経済的な交通網の整備については、TDM や ITS 施策の導入が有効であるが、新たな交通システムの早期実現を図る環境作りのためにも、既存のバス路線等を活用した TDM などの社会実験を重ね、交通特性にふさわしい施策を検討することが必要である。

また、新市の各地域を結ぶ重要な環状道路となる新潟大外環状道路をはじめとした幹線道路、補助幹線道路の整備については、関係機関と協力しながら更に整備を促進していくものとする。新市の特性として、信濃川や阿賀野川などの河川断面が交通のボトルネックとなっていることから、橋梁整備の検討を行うと共に、鉄道を拠点とした道路整備など各地域の一体化の促進と交通利便性を高めるための調査検討をしていく必要がある。

交通専門部会としては、以上を踏まえ、下記の事項について調査検討を行うものとする。

【調査研究事項】

合併新市の交通体系について

- (1) 新たな交通システム導入の可能性について
- (2) TDM 施策の推進について
- (3) 合併市町村を連絡する新潟大外環状道路の整備促進や幹線道路網について
- (4) その他

新市における総合的な交通政策スケジュールは、資料の通り

当面、部会としては、合併新市にふさわしい新たな交通システムの導入方面の検討や幹線道路網の検討など新市の交通体系の骨格について議論を進める。

2. 今後の課題

合併新市の交通体系（第 3 回パーソントリップ調査との整合）

現在、調査中の第 3 回パーソントリップ調査は、新潟都市圏の交通実態を把握、分析し、将来人口フレーム、交通需要の予測、交通体系からみた都市構造のあり方等を踏まえた、総合的な都市交通体系のマスタープランを策定するものであり、合併市町村の大半がその範囲に含まれることから、基本的には、新市の将来交通体系もこれに基づき構築されるもの

であり、第3回パーソントリップ調査との整合を図らなければならない。

- (例) ア新たな交通やTDM施策
- イ横越町の二本木地区の新駅設置
- ウ新津市の蒲ヶ沢地区の新駅設置
- エ必要な幹線道路の追加など
- オ新規インター構想など

(1) 新たな交通システム

新たな交通システムについては、新市全体の中での検討が必要である。

- ・各方面の基幹軸や交通特性にふさわしい整備手法を幅広く探る。
- ・新たな交通システムについては、導入空間や将来の採算性などが大きな課題であり、相当長期的な検討となることから、短期あるいは中期的な視点で基幹交通の確保を採すことも必要である。

- (例) ア新たな交通システムの導入検討
- イITSなどを用いた基幹バスの運行検討

(鉄道の複線化、運行本数の増、バス等公共交通機関の定時性の確保などを含めた
利便性向上の検討)

(2) TDM施策

TDM施策は、関係機関で設置した委員会で方面別のパーク&ライドを検討し、実験あるいは導入に向けた施策を展開しているため、この委員会を中心に進める必要がある。

- ・白根地域のバス円滑化などについては、委員会で位置付け実施する。
- ・今後、新市の中でTDM施策を展開していくにあたっては、新市の市町村全てを含める。
(現在含まれていない市町村:小須戸町, 味方村, 瀧東村, 月瀧村, 中之口村, 岩室村)

(3) 新潟大外環状道路など

新潟大外環状道路は、幹線道路の中でも、合併市町村の横の連携を図る上で、重要な道路であり、国・県・市の役割分担を図りながら未整備区間の早期整備を進めていく必要がある。

- ・その他、大外環状道路以外の幹線・補助幹線道路のあり方や効果的な道路活用について検討を行うことが必要

3.まとめ

交通体系の確立は、新市の最重要課題の1つであり、市民の日常生活や経済活動を支える重要な都市機能であり、新市の各地域を結び付け、都市の活力を支える総合的な交通体系の確立と人や環境にやさしい交通施策を推進していかなければならない。

交通専門部会では、合併新市の将来のために、新たな交通システムの可能性について検討を行い、効率的かつ経済的な交通網の整備についても議論を重ねていくものとする。

